

令和 6 年度 学校評価自己評価

- 重点目標 1 自主的に生きる力、自信を育てる指導の質の向上
- 重点目標 2 安全意識の向上と危機管理能力の強化
- 重点目標 3 家庭及び地域との連携の充実

評価基準	A：達成できた（90%以上） B：ある程度達成できた（80%以上） C：やや不十分、一部改善の余地がある（60%以上） D：改善が必要である（60%未満）
------	---

知的障害教育部門 小 小学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標 1	○体験的活動を通して、児童の興味関心や自信を育み、主体的、能動的に学習に取り組めるような指導を実践する。	・生活学習施設や「学びのあしあと確認表」を活用しながら、生活動作を向上させるための指導実践を行う。 ・導入や振り返り等でICT機器や視覚教材を効果的に活用し、学習意欲の向上や自信につながる授業づくりをする。	・生活学習施設等を活用した体験的活動を積極に行うとともに、「学びのあしあと確認表」での適切な実態把握を指導に生かし、生活動作の向上が図れたか。 ・体験的活動に加え、ICT機器や視覚教材を効果的に活用することで、児童ができた実感を持ち、意欲や自信を高めることができたか。	A	・客観的な指標や多角的な視点による実態把握をもとに個に応じた段階的な指導を行った。生活学習施設を活用した体験的活動に繰り返し取り組み、生活動作を向上させることができた。 ・ICT教材や視覚教材を効果的に活用することで事前事後学習の充実を図り、児童の興味関心やできた実感、主体性を引き出す学習展開をすることができた。	・学習内容や手立て等を次年度へ引き継ぎ、年度が変わっても身に付けたことを発揮できるようにする。 ・生活に関する学習についての教材を蓄積していくことで、実態や発達段階に応じて活用できるようにする。

知的障害教育部門 中学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標 1	○生徒が主体的、能動的に学習に取り組むために、学習に見通しをもち、成功体験を積み重ねることができるよう、教材や手立ての工夫を行う。	・生徒が興味をもち、分かりやすい授業ができるよう、ICTの活用など、教材の工夫をする。 また、生徒の実態に応じて課題や支援の仕方を設定し、目標を達成できるように工夫する。	・視覚的に確認できる教材やタブレットなどを活用し、分かりやすい授業を行うことで、生徒が自分からできることを増やすことができたか。	A	・ICT機器や視覚教材の使用は増えており、PPなど作成した教材が多数ある。教材準備などの時間は短くなっている。 ・PP資料や電子黒板を用いた授業を行うことで、興味をもつ生徒が多く、視覚的に理解しやすくなった。 ・コミュニケーションカードやサインを必要に応じて取り入れながら、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。	・ICT機器や視覚教材等の使用が効果的だったか、目の前の子どもの実態に合っているか、子どもが分かる姿を明確にして振り返り、改善を行えると授業に対して一人ひとり自信がもてると感じる。

知的障害教育部門

高等部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標 1	○生徒が主体的、能動的に取り組めるようICT機器を有効に活用して支援の工夫をしたり、それを自己表現できる学習機会を設けたりすることで、将来の社会生活に向けた自信を育てる。	・ICT機器を効果的に活用して、生徒の主体的な活動を引き出す授業づくりをする。 ・毎学期に行う実習報告会や実習激励会、さらに各行事のまとめの学習において発表を行い、称賛を受けることで自己肯定感を高めるようにする。	・電子黒板を活用し生徒の実態に応じた分かりやすい授業の実践をすることができたか。また、生徒が主体的にタブレットを操作して取り組むことができたか。 ・個に応じた支援の工夫をしたことで、生徒一人一人が主体的に準備や練習に取り組むことができ、発表に臨むことができたか。	A	・電子黒板を日常的に使用して、カメラ機能やパワーポイント教材、動画を映し出すことで生徒の興味関心を引き出した学習をすることができた。また、生徒たち自身もタブレットの使用に慣れ、積極的に活用できるようになってきている。 ・実習激励会や報告会、各学期の様々な行事のまとめの学習において、一人一人の成果を認めることで、次の活動への動機付けにすることができた。	・各学年において実態に応じて実践した学習内容（視覚教材や使用方法）を次年度へ引き継いでいく。タブレットの使用については、様々な実態の生徒たちが主体的に取り組める工夫を教員間で共有するようにする。 ・ICTを活用した自己表現ができる学習機会をを設け成果を称賛したことで、次の学習への意欲が高まった生徒が多く次年度も継続できるようにしていく。

肢体不自由教育部門

小学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標 1	○児童が成功体験を積み重ねることで自信を持ち、自分から身近な人や物事に関わる力を高める指導を行う。	・丁寧な実態把握と教員間での情報共有をする。 ・実態に合った分かりやすい教材や言葉掛けで授業や指導支援を行う。 ・児童のできたこと、取り組む姿を認め、称賛し、教員、保護者、関係機関と共有する。	・児童の成功体験を関係者と情報共有していくことで児童が自信を持ち、主体的に関わる姿が増えたか。	B	・児童の頑張る姿、できたことを称賛し、教員間、PT、OT、学校看護師、保護者と共有することで児童の意欲が高まり、できることが増えたり、自分から取り組んだりする姿が多く見られた。また友達を意識したり、称賛したりする場面が増えた。 ・丁寧な実態把握と情報共有のもと、実態に合った教材や指導支援を心掛け、繰り返し指導を実施し、児童の意欲や自信の高まりが見られた。	・児童のできたことや頑張りを教員、OT、PT、学校看護師、保護者とこまめに共有していく。 ・児童に分かりやすい授業を実践できるよう、教材の工夫や環境調整、教員間の連携に努める。

肢体不自由教育部門

中学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標 1	○体験的活動の経験や様々な人と関わりの中で、生徒が主体的、能動的に取り組めるような指導や支援を行い自信を育てる。	・生徒について、十分な実態把握及び教員間での共有を行い個に応じた関わりを持つようにする。 ・体験的な活動を実践するための教材を工夫する。 ・学習内容によって、グループ編成や関わる教員を変え、より多くの人の関わりを持てるようにする。 ・生徒の学習の様子を画像や、動画を用いて保護者と共有し家庭での生活に活かせるようにする。	・体験的活動の場や様々な人と関わる場の設定ができ、教員の適切な関わりを通して生徒の自信につながったか。	A	・生徒の実態や指導方法の共有を行い、適切な関わりを通して生徒が主体的に学習できるよう指導に当たることができた。複数の教員からの称賛を受けて生徒の「できた」「褒められた」という気持ちを育て自信に繋げることができた。 ・生徒が主体的に取り組むことができるよう、教材について検討し、工夫をすることができた。	・今後も丁寧な実態把握、指導方法の共有を行い学部全体で関わりを通して自信に繋げていく。 ・生徒の心情に寄り添いながら、主体的に取り組めるような教材の工夫、支援を行っていく。

肢体不自由教育部門

高等部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標 1	○主体的に学習に取り組む、集団生活や社会生活の中で適切な方法で自分の思いや考えを周囲の人に伝えたり、自ら考えて行動したりする力を高める。	・学習に主体的に取り組むことができるよう各授業において実態に合わせた教材や内容の工夫をしたり、発表の場を積極的に設定したりする。 ・伝えられた時、行動できたときは称賛し、自信につなげられるようにする。 ・校外学習や修学旅行、実習等を通して、周囲の人に自分の思いや考えを適切に伝える方法の実践をしながら経験を増やす。 ・取り組みやできたことを教員間や保護者等とも共有する。	・実習ノートや評価、また行事の振り返りなどにおいて、生徒が適切な方法で伝えたり、行動したりしようとする様子が見られたか。	A	・各授業や生活の中で質問に答えたり、発表や自己選択したりする場面を多く設定し指導をすることができた。 ・行事や実習激励会、報告会に向けてそれぞれの実態に合った事前学習や発表練習等を丁寧に指導したことで、生徒が自分に合ったそれぞれの方法で自信を持って発表することができた。 ・校外学習や修学旅行などの事前学習でWEB検索を行い、自分で調べたことを提示して発表することができた。 ・連絡帳や送迎時の保護者への報告や、各学期の懇談等で保護者に取り組みや生徒のできたこと等の報告をし、共有することができた。	・来年度以降も授業や行事の中で発表や自己選択する場を多く設定し自分の思いや考えを伝えるための指導を継続していく。 ・今後も学部全体で行う学習を適切に行いながら、生徒の実態や課題を学部職員で共有しながら日々の指導に活かしていく。

肢体不自由教育部門 訪問

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標 1	○体験的な活動を増やし、児童生徒の経験の拡大を図る。	・校外学習やスクーリング、リモート授業を行い、児童生徒の活躍の場を設定する。 ・ベッドサイドでも行える教材や活動内容を話し合う。 ・本校職員や施設職員と連携を図り、リモート授業での児童生徒の主体的な活動を促す指導を行う。	・校外学習やスクーリング、リモート授業に参加し、児童生徒の経験の場を増やすことができたか。 ・教材や活動内容を工夫することで、児童生徒が意欲的に活動に参加することができたか。	A	・今年度から校外学習が可能になり、在宅訪問生は当該学年の校外学習と訪問の校外学習に参加し、社会性を育む機会を増やすことができた。また、星風院の児童生徒は運動会にリアルタイムで参加したり、集会や通学生の音楽の授業に参加したりすることができた。 ・教材を操作し、ボールを転がしたり、ライトをつけたりすることができた。変化に気付いて目を動かしたり体に力を入れたりすることができた。	・来年度も児童生徒が経験できる機会を設けていく。また天候によって校外学習やスクーリングに参加が難しいこともあるので、予備日を設け、柔軟に対応していく。

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標2	○病棟との連携を通して、児童生徒への理解を深め、児童生徒が安心して学習できる環境を整え、学習効果の向上を図る。	・申し送り簿による放課後から翌朝までの様子と学校での様子の共有していく。 ・毎月一回主治医、心理士、看護師等によるトータルケアカンファレンスへの参加。 ・毎月一回の病棟分教室連絡会議を実施する。	・医療側から見た児童生徒の情報と教室での様子を共有し、より良い方向性を見いだせたか。	A	・定期的なカンファレンスや病棟連絡会議で児童生徒の治療計画や経過についての情報共有を図ることができた。また、申し送り簿を通して、病室や教室での様子を確認し問題点があるときには対応方法を相談するなどした。情報共有により安心して学習に取り組めるように環境を整えることができた。	・児童生徒の病状や精神状態は一樣ではないため、常に主治医や病棟看護師等と連携し、教員間の情報共有を怠らず適切な環境づくりに努めていく。
重点目標3	○保護者との連携を充実することで、児童生徒の教育活動が安定し学習に取り組める。 ○前籍校と連携することで、学習に集中して取り組み、退院後に戻る不安の軽減を図る。	・転入時の面談で児童生徒について詳細に聞き取る。 ・保護者の不安感も聞き取り寄り添っていく。 ・必要に応じ電話や面会での来院を利用し、学校での様子や保護者に話す本人の本音等児童生徒の様子を共有していく。 ・前籍校との授業の進度の確認を行い、児童生徒と情報を確認する。また、ことらの進み具合と授業の様子も伝える。 ・リモートによる授業の参加が可能な場合は実施する。 ・転学时相談会の希望があるときには、実施する。	・十分な実態把握ができ、児童生徒が授業に安定して参加することができたか。 ・授業の計画を適切に立て、個々の実態に合わせて授業を実施することができたか。	B B	・本人・保護者と主任・担任で転入時の相談を実施した。入院までの経緯や児童生徒の健康状況などを後日保護者に確認する場合もあった。 ・連絡帳を通して学習の様子を伝えたり、面会時に直接会って話したりすることで体調や学校生活の様子を共有し今後の対応を相談・確認することができた。 ・学習進度の連絡を密にし、情報を共有していくことで、児童生徒の学習の不安が軽減された。 ・リモートの活用により、友達や担任と顔を合わせる機会を持つことで退院後の不安を軽減することができた。	・今後も、保護者の実情や気持ちに寄り添い、細やかな対応を心掛けていく。それを活かして、児童生徒が授業に安定して参加できるように取り組んでいく。 ・治療の影響で学習が進められないこともあった。前籍校と連絡を取り合い状況を説明するとともに、戻るまでの学習進度がなるべく同じになるように進め方を工夫していく。 ・リモートは、学校により経験値が異なるため、丁寧に対応し、実施できるようにする。

重点目標1 自主的に生きる力、自信を育てる指導の質の向上

重点目標2 安全意識の向上と危機管理能力の強化

重点目標3 家庭及び地域との連携の充実

評価基準 A：達成できた(90%以上) B：ある程度達成できた(80%以上)
C：やや不十分、一部改善の余地がある(60%以上)
D：改善が必要である(60%未満)

教務部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標2	○校内の体制整備の強化を図り、安全・安心な学びの基盤作りに努める。	・各学部や各校務分掌と連携しながら、安全に行事等を実施できるよう、危険意識を共有し、計画を実践できるようにする。	・実施計画を立てる段階で、無理のない計画か、安全対策はできているか等を確認することができたか。 ・危険防止の注意喚起をすることができたか。 ・緊急時は関係する教員間で連携し、速やかな連絡体制を取り、対応することができたか。	A	・各学部、分掌部と連携しながら、安全に配慮した実施計画を立てることができた。 ・校務日誌等を通し、注意を喚起することができた。 ・緊急時には速やかに教員間で連絡体制を取りながら、対応することができた。	・今後も安全を第一に考えながら実施計画を立案できるようにする。 ・緊急時の体制を日頃から確認しておくようにする、

情報部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標2	○情報モラル研修を教員に対し行い、安全にネットや機器を使えるようにする。また、児童・生徒に情報モラル教育を行い、決まりを守って使えるようにする。	・情報モラル研修を定期的に行い、意識作りをする。 ・情報モラルに適した学習サイトや教材を紹介し、授業を実施できるようにする。	・定期的な(学期に1回程度)情報モラル研修を行うことができたか。 ・各部門、学部の児童生徒に対し情報モラルの授業することができたか。	B	・教職員向けでは、適正な校内の情報機器の使用やセキュリティに関することの研修を行うことができた。 ・児童生徒に向けては、長期休み前にスマートフォンやタブレットの正しい使い方について小学部、中学部、高等部と実態に合わせた教材を作成し、授業で活用を教職員へ呼びかけた。	・個人情報の取り扱いについてやスマホやタブレットなどの私物の情報機器の利用についてはもう少し研修が必要かと思われるので継続していく。 ・長期休み前の情報モラル教育の教材を作成したり、提供したりして継続し、家庭への理解も深めていきたい。

学習指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○児童生徒の主体的な学びを引き出すための目標設定や学習環境の設定を促す。	・ 学びのあしあと確認表を活用したキャリアパスポートの作成について周知を図り、児童生徒の主体的な学びを促す指導の工夫を働き掛ける。 ・ 生活学習施設の使用や実生活に近い学習場面の設定を促し、生活に関する指導の充実を図る。	・ 学びのあしあと確認表およびキャリアパスポートが適切な時期に作成、振り返りがされたか。 ・ 生活に関する指導等において、生活学習施設を積極的に活用したり、より実生活に近い学習場面を設定することができたか。	B	・ 学びのあしあと確認表による客観的な実態把握や複数の教員による多角的な見立てによる目標や指導手立ての設定ができた。 ・ 個別懇談において目標や学習の成果、課題について保護者と共通理解を図った。また、ICT機器を活用した視覚支援や、興味関心に合った教材の工夫がされた授業の組み立てにより児童生徒が意欲的に取り組む学習を多く展開できた。 ・ しらさぎ寮を使用して、生活に関する学習や宿泊学習を行い、実生活に近い環境で体験しながら学ぶ機会を持つことができた。 ・ 肢体不自由教育部門では、教室や廊下の清掃、実際の買い物に近い学習場面の設定に取り組んだ。	・ 児童生徒の実態把握や、指導目標の設定をするための客観的な指標や資料の提示を行う。 ・ また、児童生徒の実態や興味関心に合った教材の工夫を、ICT機器を活用しながら進めていく。 ・ 今後も実生活に近い学習場面の設定を行う。今年度の学習の成果を次年度に引き継げるよう年間指導計画の見直しや学習内容の検討を行っていく。

交流教育部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標3	○学校、地域の団体、公民館等と連携を図り、交流学習や啓発を行うことができる。	・ 事前に交流相手と十分な打ち合わせや出前授業などを行う。 ・ 公民館や保健福祉センターに本校児童生徒の作品を展示したり、HPで交流やボランティア活動の様子を発信する。	・ 相手校や団体の担当者と連携を図り、スムーズに交流活動を行うことができたか。 ・ 定期的に作品の入れ替えを行いながら展示することができたか。 ・ 行事終了後、速やかにHPに載せることができたか。	A	・ 電話やメールで連絡を取り合いながら計画を進め、必要に応じて出前授業で本校や児童生徒の理解を促した。 ・ 皆川公民館に児童生徒の作品を展示したり、高等部ビルクリ班が清掃活動を行ったりなど地域とつながりを持てた。 ・ 行事終了後、HPや校内掲示にて情報を発信できた。	・ ボランティアスクールの案内先を検討していく。また、校内向けに学校支援ボランティアの紹介もしていく。 ・ 3校交流についてはR8の皆川中の統合に伴う交流相手の再編などについて来年度中に検討する。

生徒指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標2	○安全・安心な学校づくりに向けて、教職員個々の安全意識の向上と危機管理能力の強化を図る。	・ 事故や事件が発生した場合に迅速かつ適切な対応ができるよう、教職員個々の能力の向上を図る。	・ 不審者対応訓練や校外搜索訓練を通して教職員の能力を向上させ、実際の場面では協力して対応することができたか。 ・ 緊急時の教職員の役割分担を明確化し、個々が理解しながら対応することができたか。	A	・ 不審者対応訓練と校外搜索訓練での実践をとし、教職員個々の安全意識の向上につなげることができた。 ・ また、緊急時の役割分担を教職員間で確認し、実際の場面における対応方法を確認することができた。	・ 教職員の安全意識や緊急時の対応力について、今年度と同様の水準を維持するため、次年度も継続して取り組んでいく。

健康指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標2	○学校における事故の未然防止や危機発生に備えて、安全な環境整備に務めるとともに、教職員の安全意識を高める。	・施設、設備の整備点検を適切に実施し、想定される事故等に対して危機管理マニュアルを参考に事前の対策を講じる。 ・訓練や研修等で、具体的に教員の動きを確認し、危機意識を持って、誰もが組織的に対応できるようにする。	・事故の未然防止の注意喚起を行い、施設、設備の不具合があった際には迅速に対応することで、事故防止対策を行うことができたか。 ・地震対応訓練や火災訓練、水上安全講習や窒息事故、心肺蘇生、医療的ケアに関する研修等を通じ、教職員が危機意識を持ち、自分の役割を理解しながら行動することができたか。	A	・全職員で施設、設備点検を適切に実施したり、食物アレルギー対応や医療的ケアでは、教員、保護者、養護教諭、学校看護師、栄養教諭等が連携することで安全に実施することができた。また、ヒヤリハットからの学びの共有を丁寧に行うことで再発防止に努めている。 ・定期的な訓練を実施することで、防災意識・危機意識を高めることができた。ハリーコール時には、組織的に対応することができている。	・安全に実施するために情報量が多くなるため、重要なことを分かりやすく伝えられるよう、提示する内容の整理、資料や提示時期、伝え方の工夫を行い、全職員の安全意識を高め、事故が起こらないように務める。

進路指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○進路に関わる学習において、生徒が自信を持ち、自立的に生きる力を高めていけるよう指導を工夫する。	・実習等を通して自己の課題を把握できるよう振り返りの場面を充実させる。 ・卒後の生活をイメージできるよう施設や企業の動画や写真を授業で活用する。	・生徒が自己の課題を把握し、日常生活や進路に関する学習において意識して活動したりすることができたか。 ・卒後の職業生活に向けた授業等で積極的に動画や施設のパフレット等を活用できたか。	A	・校内実習や現場実習を経て、自己の良さや課題について知り、日頃の学校生活において意識して活動できる生徒が増えた。 ・タブレットやパンフレットを使用して企業や福祉施設での一日の様子や企業で働くために必要な能力を調べたりするなど卒後の生活についてイメージすることのできる生徒が見られた。	・今後も振り返りの学習を充実させ自己の理解に努められるようにする。 ・今後も生徒にとってより深い理解につながるように動画等を活用した学習を続ける。
重点目標3	○保護者への進路情報の提供や保護者のニーズに答えるために、事業所等の施設や企業と連携して、ホームページや便り等を充実させる。	・授業で活用した資料や施設等の情報をホームページや便り、懇談等で保護者に分かりやすく発信していく。	・進路の学習に関する記事を定期的にホームページに掲載できたか。 ・進路情報をホームページや便り等で保護者に適切に発信できたか。	A	・ホームページに進路だよりを載せ、実習など進路に関する学習について発信したり、各福祉施設のホームページのリンクを貼ったり、新規事業所の情報について発信したりすることができた。	・引き続き様々な情報を発信できるようにしていく。

渉外部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標3	○家庭及び地域との連携を深め、児童生徒の教育及び教育環境の整備を行う。	・PTA会員のニーズに応じた、活動を考え、計画、実施をする。	・奉仕作業で校内の学習環境の整備を行うことができたか。 ・家庭、学校、地域が連携しながら活動を行ったり、情報を伝達したりすることができたか。	A	・年2回の奉仕作業で学習や行事で使用する場所を重点的に清掃し、環境整備を行うことができた。 ・座談会や視察研修、レクリエーションなど役員会や合同会議で話し合いをしながら計画、実施をすることができた。実施の様子をホームページやインスタグラムで随時あげることができた。	・より多くの会員に活動に参加してもらうために活動内容や時期、通知の方法を検討していく。

地域支援部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標3	○関係機関や各学部と連携を図り、保護者が安心して就学や転学に向けての準備ができるような情報を発信する。	・関係機関や各学部と連携し学校見学会や体験学習を行う。 ・学校HPなどを通じて情報発信を行う。	・関係機関や各学部との連携を図りながら学校見学会や体験学習を運営することができたか。 ・就学や転学に関する情報発信を行うことができたか。	A	・関係機関や各学部と連携をしながら学校見学会や体験学習を計画、運営することができた。また、学校見学会や体験学習等の案内や申し込み、早期教育相談の案内などを学校HPで発信した。今年度中に学校HPの情報を整理し、保護者、施設等関係者などのページに分けて活用しやすくする。	・学校HPやインスタグラムを利用して更に情報発信を行い、早期教育相談でも紹介していく。また、学校公開などの申し込みは学校HPやフォームズを活用できるようにし業務の簡略化を図る。

舎務部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○日常生活の指導や行事運営などにおいて、ICT機器を取り入れる。	・日常生活や生活の達人の指導、各種オリエンテーションなどにて、パワーポイント等を活用する。	・諸活動において、ICT機器を使用することができたか。 ・個別の指導計画における活用や、生活技術の向上に生かすことができたか。	B	・映像を活用した歯磨き指導や、舎生会全体会でのパワーポイントを使った議題等の紹介、洗濯物置みの支援教材などで取り入れることができた。	・今後も様々な活動に、ICT機器を活用する。
重点目標2	○職員間の連携により、安全な生活を送れるようにする。	・施設設備の危険箇所の共有や各避難訓練等を通して、災害時に身を守る具体的な方法について対応する。	・安全に関することについて、情報の共有をすることができたか。 ・適切な対応ができるよう、適宜、協議する機会を設けられたか。	A	・安全教育に関する訓練を定期的実施したことで、緊急時の身の守り方や組織対応の仕方などを検討し、取り組むことができた。	・不審者対応などマニュアル以外の侵入に対して、臨機応変な対応を常に念頭に置いて日々の業務にあたることができた。